

# 初代後藤義光の彫刻を訪ねて2(和田・丸山編)

## 後藤義光その2 各地に残る義光の作品

文化12(1815)年生~明治35(1902)年没

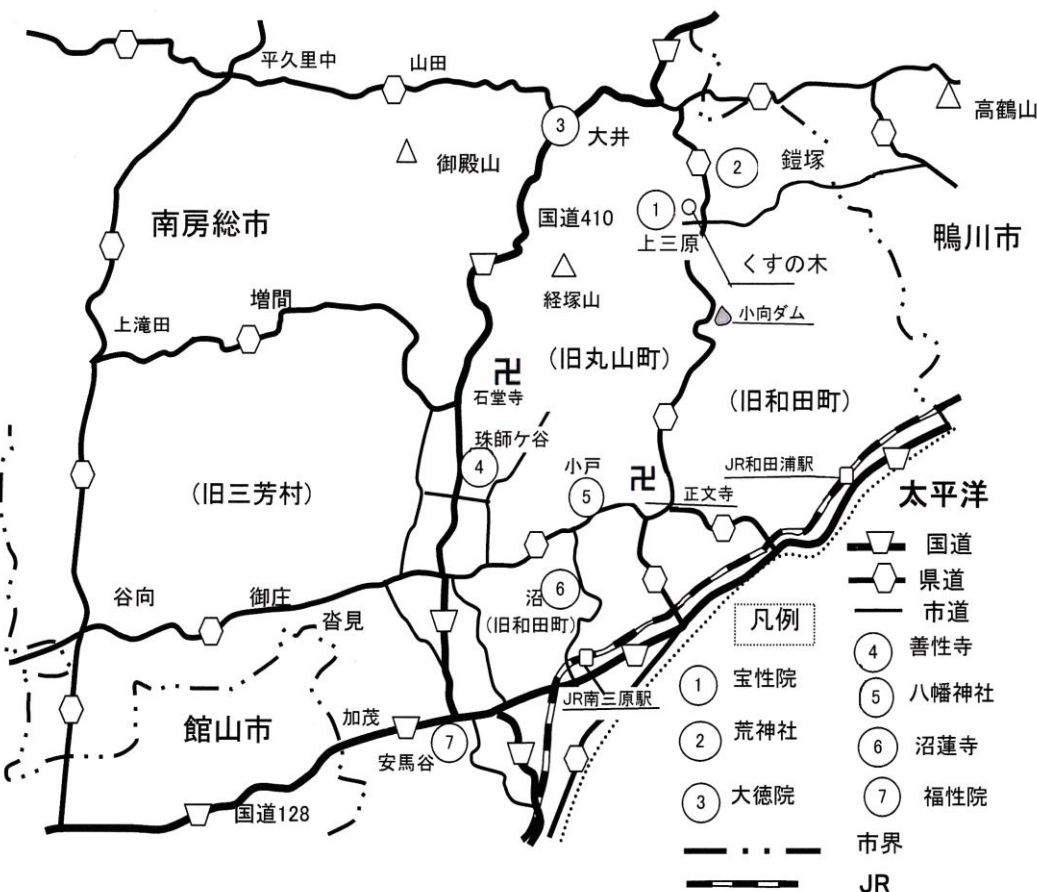
南房総市千倉町で生まれた「後藤利兵衛 橋 義光」は、安房の代表的な宮彫り師で安房地方の寺社や各地の神輿や山車・屋台に多くの作品を残している。義光の作品は、荒仕上げの中に優しさがあり、木目を巧みに生かした美しさは見るものを引きつける。建物の様式によく整合しており、社寺建築の文化性を良く表現している。義光は竜を得意とし、寺社の向拝・虹梁などに玉取り竜が刻まれているほか、屋台の破風や山車・神輿の欄間、扁額、個人所有の仏壇欄間、弘法大師像、宝船、恵比寿天・大黒天像、動物の置物等が残されている。

ここでは、南房総市の旧和田町や旧丸山町に残された彫刻を取り上げた。

義光の彫刻は横須賀、鎌倉、京都にも見事な作品が残っている。各地に残された作品と寺社建築との一体感も見てほしい。

### 後藤義光の生涯と主な彫刻

年号(西暦)	年齢	事 歴	
文化12(1815)	1	朝夷郡北朝夷村(南房総市千倉町北朝夷)上人塚に生まれる。本名、利兵衛 幼名、若松。父は大工職の山口弥兵衛	
文政11(1828)	14	大黒天像、寶頭盧(びんずる)尊者像を彫る(南房総市千倉町川合 愛宕神社蔵)	(1 千倉・白浜編)
天保8(1837)	23	江戸京橋の彫刻師後藤三次郎恒俊の弟子となる	
天保13(1842)	28	横須賀市叶神社(浦賀明神社)の再建にあたり、拝殿の扉・格天井・欄間、木鼻の獅子などを彫る(銘:「後藤利兵衛光定」) →義光の出世作となり名声高まる	
天保15(1844)	30	南房総市千倉町西養寺の向拝彫刻を彫る	(1 千倉・白浜編)
弘化3(1846)	32	鎌倉市八雲神社の向拝彫刻を彫る(銘:「安房国住後藤利兵衛義光」) 42歳頃まで鎌倉等で活躍したと伝えられている	
安政3(1856)	42	このころ、千倉に帰郷する	
安政6(1859)	45	南房総市千倉町円蔵院に欄間彫刻を制作する(銘:「後藤利兵衛橋義光」)	(1 千倉・白浜編)
文久3(1863)	49	館山市鶴谷八幡宮向拝の格天井(「百態の竜」市指定文化財)や木鼻などを制作する	(4 館山編)
元治元(1864)	50	鋸南町妙本寺の向拝彫刻を制作する	(3 鴨川・鋸南・富山編)
慶応4(1868)	54	鴨川市龍性院の向拝彫刻を制作する	(3 鴨川・鋸南・富山編)
明治5(1872)	58	清澄寺(鴨川市)住職金剛宥性が安房国108ヶ寺の地藏尊御詠歌奉額にあたりその扁額を制作する	
明治9(1876)	62	南房総市大井大徳院の石造地藏菩薩坐像を制作する	(2 和田・丸山編)
明治17(1884)	70	南房総市丸山地区東光山福性院不動堂の向拝の龍の彫刻を制作する	(2 和田・丸山編)
		南房総市千倉町住吉寺観音堂の向拝彫刻を制作する	(1 千倉・白浜編)
		南房総市千倉町円蔵院の弘法大師遠忌石塔や鴨川市白滝不動の向拝龍を制作する	(1 千倉・白浜編)
明治20(1886)	73	南房総市千倉町白間津日枝神社の向拝彫刻を制作する	(1 千倉・白浜編)
明治24(1891)	77	南房総市富山地区高崎浜下屋台の彫刻を制作する	
明治25(1892)	78	館山市小網寺の向拝彫刻を制作する	(4 館山編)
明治29(1896)	82	この頃館山市上真倉(青柳)に居住する	
明治31(1898)	84	南房総市千倉町福寿山正福寺の宝篋印塔の彫刻を制作する	(4 館山編)
		館山市下真倉日枝神社神輿の彫刻を制作する	(4 館山編)
明治32(1899)	85	館山市上真倉神明神社神輿の彫刻を制作する	(4 館山編)
明治35(1902)	88	館山市船形地区大塚の山車の彫刻を制作する	(4 館山編)
明治35(1902)	88	南房総市富山地区勝善寺の向拝彫刻を制作する	(3 鴨川・鋸南・富山編)
		館山市長須賀来福寺に門人・友人が義光の米寿を祝って碑を建立する	(4 館山編)
		4月22日没 ※以上の表は数え年で記していますが、年代をあわせたため実際に彫られている年齢(本文に記載)と異なることがあります	



大徳院 石造地藏菩薩坐像  
(南房総市大井)  
南房総市指定文化財

①大王山宝性院 南房総市和田町上三原 1426

真言宗智山派のお寺で本尊は不動明王。創建年代は不明だが、天文(1532～1555)年間に焼失、その後賢慶が中興開山し大正中中期まで多くの信仰を集めた。境内に虫神様を祀ったお堂があり、向拝の柱に耳外側に巻き毛、内側に火炎を施した獅子が飾られ、虹梁には若葉彫りが施してある。彫刻年代は不明だが「北朝夷村 彫工 後藤利兵衛橋義光」と銘がある。虫神様は南房総市指定文化財で明和(1764～1769)年間興雅和尚が上総久留里より勧請し虫除けを祈願したという。病虫封除・息災豊穰を祈念し鳥図絵馬を奉納する人々が昭和初期まで続いたといい、堂内に多くの鳥図絵馬が残っている。また、この寺で昭和初期まで俳句の会が開かれていたといい、俳句額も奉納されている。虚空蔵堂には、虚空蔵菩薩像、明治15(1882)年奉納の開運大黒天と山神社境内観音堂から遷座した観音像が祀られている。

②荒神社 南房総市和田町鎧塚 92

火産靈命・天太玉命・天日鷲命の三神を祀り三宝荒神、荒神様とよんでいる。修験道の山伏や日蓮宗の僧侶によって勧請されたという。向拝龍は子供を抱き寄せ見つめ合う姿で細い火炎で囲まれている。「彫師 同郡北朝夷村後藤利兵衛橋義光」と銘があるが年代はない。左右の向拝柱には迫力のある獅子と牙を持った猿、そして左右の肘木には波間に亀二匹が透かし彫りされ、虹梁には波に千鳥が彫られている。手挟みは肉厚で松と竹の間に鶴が彫られている。左脇障子は牡丹に獅子が彫られ、右脇障子は松間の滝に獅子が彫られ「施主高橋」の名が見られる。屋根左右懸魚には鶴が配され、社号額にも波に宝珠と龍二匹が縁取られている。拝殿左右柱の龍は二代目紋次郎義光の作といわれ、社殿全体の彫刻は初代義光と息子紋治郎と共同で作業したと推測される。また、拝殿の格天井には作者不明だが48枚の彩色花鳥図が描かれていて、社殿全体が素晴らしい作品で彩られている。大正5(1916)年の本殿の新築、拝殿改築の際に彫刻が付け替えられたようである。

③愛宕山大井寺大徳院 南房総市大井 220

真言宗智山派圓蔵院末のお寺で、現在の本尊は不動明王。境内には9坪の切妻鉄板覆の地蔵堂がある。寺伝によれば、天文(1532～1555)年間、里見実堯により建立され、地蔵菩薩を本尊とし不動明王、毘沙門天を祀っていたと伝えられる。地蔵堂には、今も不動明王、毘沙門天を脇に据えた木造の地蔵菩薩立像があり、加えて総高192cm、像高95cm(左足垂下部まで126cm)、膝前76cmの石造地蔵菩薩坐像もある。後者は、村人が発掘した愛宕山麓溪流の親子石を使い、大徳院住職明道の発願と地蔵講や大井村等の信者の篤志により、明治5(1872)年、義光(58才)が制作したものである。本像は、嶺岡山系産出の蛇紋岩を用い、光背から地蔵像及び請花、敷茄子までを一石とし、返り花を配した六角形の台座をもう一つの石に彫っている。左手に宝珠、右手に錫杖を持つ延命地蔵(白寿延命地蔵)である。円光背には24字の光明真言と3個の宝珠を刻み、後ろには梵字「ア」(大日如来等)を刻んでいる。像容は、左足を垂らし右足を左膝の上に置く半跏像で、伏し目がちな目に筋の通った鼻、軽く結んだ口元には、慈愛に満ちた表情が窺える。

また、敷茄子正面に唐獅子、六角形の台座前方三面には波と亀・宝珠が彫られている。銘文は台座後方三面と敷茄子左右の側面に刻まれており、台座後方右側面には「當國北朝夷邑彫工 後藤利平 橋義光」と「御光一式 千光山主宥性和尚」の名、台座後方左側面に発願主の法印明道の名、台座後方中央部に石の寄付者と地蔵講や信者の名がある。石造地蔵尊としては安房郡市域において最大級とされ、木彫を得意とする義光が最初に手がけた石造物であると思われる。

⑥善性寺 南房総市珠師谷526

天台宗のお寺で本尊は薬師如来、往古は、字中居清水にあり、清水山善性寺と称していた。元和3(1617)年宋玄和尚が現在地に移したという。境内に大黒堂があり、大黒天が祀られている。大黒天は右手に打ち出の小槌を持ち、左肩に大袋を背負い、口を少し開き何かを語りかけているようで、また穏やかな笑顔の中に人を慈しむ心を持っているように見える。ここの大黒天の裏側に「後藤利兵衛橋義光作七拾五翁」の銘と「當寺現住武井純度代」の銘がある。明治22(1889)年この地は、豪族丸一族中でも最も有力であった咒師谷殿の屋敷跡地とされ、境内のやぐらには、宝篋印塔や五輪塔が数基あり、咒師谷殿の累代の墓であると伝えられている。昭和62年(1987)、他のやぐらを調査したところ、鎌倉時代後期から室町時代にかけて亡くなった仏を供養するため貝に経を書いた物が発見されているが大変珍しい。

⑤八幡神社 南房総市小戸 382

祭神は菅田別命。寛文元(1661)年東条藩主西郷若狭守の時、神田として3畝歩を免ぜられた。寛文3(1663)年神主清水長左衛門の時、社殿を改築。正徳元(1711)年拝殿造営。享保2(1717)年本殿造立。安永3(1774)年本殿内宮修築。慶応2(1866)年社殿改修。明治35(1902)年社殿修理。明治37(1904)年参籠殿改築。大正4(1915)年本殿・幣殿・拝殿改築の記録がある。拝殿正面には明治35(1902)年と大正4(1915)年の寄付額があり、神職を務めた清水家を筆頭に寄付がなされている。拝殿向拝の獅子の彫刻は後藤義光作で左柱の獅子には「彫工後藤義光」、右柱の獅子には「彫工後藤利兵衛橋義光」の銘がある。拝殿正面の社号額は後藤喜三郎義信の作。社殿内には社宝として三番叟の面があり、かつて例祭日に三番叟の舞が奉納され多数の人でにぎわったという。

⑥沼蓮寺 南房総市沼 763

真言宗智山派のお寺で本尊は地蔵菩薩。延慶(1308)元年、眞雅和尚が創建したと伝えられる。地蔵菩薩立像とその脇侍などを祀る本堂の北隣には薬師如来を祀る薬師堂がある。義光の作品は、本堂欄間に「百八ヶ寺地蔵尊巡り」第65番の扁額が掲げられている。薬師堂の北隣に銘の一部が欠損しているが、作風や製作時期から考えて初代義光の弟子の後藤義信が彫ったと思われる彫刻を取り付けた鐘楼がある。薬師堂前にある鐘楼再建記念碑によれば、明治16(1884)年に強風で損壊したが、信者の寄付により、明治28(1896)年2月に再建した。刻銘が龍の裏面にあり「セワ人 小幡常吉、斎藤安治、渡邊梅吉、明治廿八年 當區棟梁 小池豊鉦、当国安房郡 彫工 後藤義口(「信」の文字があったと思われる部分が欠けている)」となっている。作者は不明だが薬師堂にも彫刻があり、屋根を支える桁の下に波、堂内の梁には菊と思われる花や葉などの浮彫りや若葉彫りなどが施されている。境内には七浦庵三斎の俳句「隔たるや 月には山の よい程に」を刻んだ句碑(俳諧の小戸連、沼連が建立)や、光明真言百万遍の碑と「奉誦 誦法華経万部余供養塔」などがある。

⑦東光山福性院 南房総市安馬谷 935-1

真言宗智山派宝珠院末(南房総市府中)のお寺で、本尊は地蔵菩薩である。由緒は不詳、建物は江戸時代のものといわれる。明治の神仏分離までは安馬谷八幡神社の別当寺を勤めていた。宝珠院第39世邨田栄運が隠居していたおりの、明治9(1876)年に再建した不動堂の向拝の龍の彫刻は、義光63才の作で、宝珠をつかんだ躍動感のある作品である。両脇の木鼻に獅子、向拝の裏側にあやめ、両脇の虹梁には波間に遊ぶ小鳥の図が彫刻されている。本堂向拝の獅子と猿は刻銘がないが三代武志伊八郎信美作といわれている。境内には中世の希少な作として南房総市指定の石造地蔵菩薩像や井上杉長の句碑「蝶を追うこころもちたしいつまでも」(文政5(1822)年建立)がある。

※ これら寺社の作品は一般の方々が行けば見られるものですが、所有者の迷惑にならないように見学して下さい。本堂内等にあるものは見ることは出来ません。

作成：ミュージアム・サポーター「絵図士」青木悦子・青木徳雄・金久ひろみ・川崎一・鈴木正・吉村威紀>